目安箱162

神代辰巳の新作を見て

上野昂志

　神代辰巳監督の新作『赫い髪の女』を、近所の映画館で見た。近所といっても歩いて行けるところにあるのではなく、また、田中小実昌さんの真似をして自転車に乗って出掛けてみても、むろん行けなくはないが、三十分ぐらいはペダルをこぎ続けねばならないくらいの、つまりは電車で新宿とは逆方向に三駅ばかり向うにある映画館だ。駅の近くにあるのだが周辺は繁華街というわけではなく、だから、昼下りの時間にポルノを見てポンと道にとび出すと、通りがかりの主婦がツと視線をそらすというような、そんな映画館だ。

　映画はおもしろかった。全篇、宮下順子の赫髪の女と、石橋蓮司のダンプカーの運転手がひたすらやり続けているというような映画なのだが、それが、彼らを降りこめている雨と彼らのかく汗と、体液と、水道の水によって濡れそぼっていて、見ているこちらにも湿気が伝わってくるような感じで、ああ、神代辰巳は健在なりと思わせたのだ。中上健次の原作は読んでいないが、しかし、おそらくこの水の横溢は、神代がその独特の触覚によって、原作のうちに探りあてたものであろう。それは、たんに映画のなかの外界を降り続ける雨として、主人公たちの体をその外側から濡らすだけではなく、汗として、体液として、彼らの肉体の内側からもふき出し、外と内とを緩やかに連環させるのである。あるいは、時間の進行を澱ませて、すべてを現在化させるのである。

　わたしは、そんなふうに溢れかえる水を浴びながら、同時に、頭の隅で、土方殺すに刃物はいらぬ、雨の三日も降ればいい、と、昔語りの文句を思い出したりして感心していたのだが、どうも場内の雰囲気はそうでもないらしいのに気がついた。日曜日の午後で、狭い小屋はほぼ八割の入り、しかもこの近所に大学があるせいか、その客のほとんどは、学生ふうの若い男たちなのだが、彼らの多くは、感心するどころか、妙にしんどそうなのだ。わたしの席の後に座っていた男などは、映画が終ると、隣の友だちに、オレ頭が痛くなったよとこぼし、友だちのほうもそれに同調するふうだった。いったいどうしてなのか。

　映画は、ふつうの意味では決して難しくて頭が痛くなるようなものではない。話も単純だし、ごくマジメなポルノとして作られている。マジメな、というのは、ポルノは見せかけで、その見せかけの陰にいろいろなものを詰めこんでいるというようなことの絶対ない、裏も表もポルノ以外の何ものでもないということである。だからそういう意味で頭が痛くなるようなところはないはずなのだが、しかし、たとえばわたしの後に座っていた男はそういうのである。彼はポルノ嫌いなのか。だが、その男が特別の例ではなく、ほかの客たちも、程度の差こそあれ、似たような感じを抱いていたらしいということは、こういう映画館に永いこと通っているわたしにははっきりわかるのである。みんな、どうやらこの映画がしんどかったらしいのだ。それ

は何故か。

それは、ひとつには、この映画の物語の主導権を握っているのが、石橋蓮司や三谷昇といった男たちではなく、宮下順子や亜湖、絵沢萌子や山口美也子といった女たちであるということが、棘のように、それを見る男たちの胸に突き刺っていたということがあるだろう。全篇、ひたすらやり続け、というような映画にあって、そのやるほうの主導権は、どのカップルにあっても女が握っているということが、棘になっているのだ。しかもそこには、愛だの恋だのというような、それなりに納得のいくような前提があるわけではなし、また、俗に据え膳というような、受け身のかたちの誘いが用意されているわけではない。端的に、女が、やりたいからやるのであり、そこには男の心情をくすぐるものも、欲望を喚起するものもないのだ。このことは、これまでの多くのポルノ映画が、男の欲望をこそ説明不用の「自然」としてきたことへの、反措定でもあるだろう。ともあれ、それが、観客の男たちに棘のようにひっかかってしんどく感じさせたかもしれないということは、十分に想像できる。

だが、むろん、そればかりではない。わたしは、このとき一緒にやった『宇能鴻一郎の看護婦寮日記』と『女教師・汚れた噂』の、性交場面を見ながら、それと神代辰巳のほとんど決定的とも思える違いがわかって、わたしの周囲の観客が感じていたらしいしんどさを別な角度から了解し得たように思った。ひとことでいえば、『赫い髪の女』の性交場面は、きれいではないのだ。映画としては、他の二作など比べようもないほどに美しいのだが、性交場面は、いわゆるきれいではないのである。他の二作が、ベットシーンと呼ぶほうが似合いであり、それに対して神代の映画は、そのことばそのものに抵抗を感じながらも、あえて性交場面というしかないと思うほどに、ありようが違っているのだ。ここからは、薄い蒲団がじっとりと湿気を含んで体にまといついてくる、その湿気が感じられるのである。

安アパートの、建てつけの悪いガラス窓をあければ絶えず降りこんでくる雨も、その印象を強めているだろう。廊下側にある、ほとんど日の当ることのなさそうな流し台と、いつも水滴を浮かせているような水道の蛇口も、やはり同じことだろう。だが、それにもまして、女が、小さなコタツのかたわらの敷きっぱなしの蒲団にいぎたなく座りこんで、男が帰ってくると、その汗くさいズボンを、あるいは靴下を、この臭いがたまらないのだとばかりに触れてくるところから始まる性交そのものが、湿気を含んで、決して清浄になどなり得ない肉体そのものの暗さと重さを伝えてくるのである。

これに対したら、『看護婦寮日記』や『汚れた噂』のベットシーンは、はるかにきれいであり、抽象的である。そしてその抽象性は、ほかならぬセックスについてのもっとも一般的な観念に見合って、いまの観客に抵抗なく受け容れられるらしいのである。そのときわたしの周囲にいた若い男たちを例にしていえば、彼らは、そのような抽象的なベッドシーンにこそ欲望をそそられ、『赫い髪の女』のような場合には、むしろしんどくなってしまうようなのだ。彼らの生活の実際からすれば、日当りの悪い四畳半のアパートの、湿気でじとついたふとんの上での性交のほうがはるかに現実的であるにもかかわらず、である。

おそらく、通常のポルノ映画のベッドシーンの抽象性は、雑誌のグラビヤのヌードの抽象性に重なっているのであろう。それを戦後という時間のなかに置いてみれば、我々は、これまでひたすら、きれいで見よいヌード写真を求めて、欲望をその抽象化の方向に上昇させてきたのであり、それがいまではもっとも「自然」なものになってしまったということである。いま問題なのは、このきれいなヌード写真が欲望を作るのであって、それが「自然」として了解されている点である。ちょうど、夥しい商品がその美しい表面で我々を吸引し、それらの相乗されたイメージによって我々の「中間層」意識が作られ、意識にとってはそれこそが「自然」と感受してしまうのと同じようにだ。だが肝腎なことは、この「自然」が決して現実にとっては「自然」などではないということである。むしろ現実は湿気の抜けない蒲団のなかにあり、そのことは誰の眼にも明らかになっているのに、にもかかわらず意識は、それを回避して、抽象的なイメージのうしろに、ありもしない距離や奥行きを仮構するのである。その「自然」をぶちやぶること――わたしはここでリアリズムということばを、従来とは逆のかたちで想いうかべる。

読者サロン

わたしの心をふさいで

伊部誠三（長浜市）

ジャンジャンジャーン。青林堂の人類のみなさんお元気ですか。

私はモト極左穏健派、現極右穏健派の三十男であります。ところで五月号は充実していました。うれしかったです。やまだ紫「性悪猫」は、なるほど猫はこういうことばで考えているのかと思わせます。（第一作のウブな小猫の『……あっなんとおっしゃりますやら』には感心した）絵も良い。この人は猫をよく知っていると猫好きの私は思います。第三作のテーマはよく理解できました。

ヘンテコマンガの創始者にして独裁者の渡辺和博のマンガはひたすら面白い。深沢七郎氏はケネディ大統領が殺されたとき赤飯をたいたそうだが、その赤飯をつきつけられた感じがする。

中国大使館はこのヘンテコマンガの解釈にナヤンでいるらしいが、どんなインテリでもこのマンガの正確な解釈は出来そうにない。作者本人もわからないと思う。絵も風格が出て来たなあ。江青女史なんかよく似ている。

大衆小説家、筒井康隆めおどろいたか。このマンガの構成は完ペキに近いぞ。マンガ青少年よ、和博先生につづけ。ヘンテコマンガ天天向上！

さて代々木方面には『寅さん』というのが盆と正月に出てくるが、こっちには猟奇王が毎月のように出てくるんだ忘れんな！

ひたすらにテーマを追い求め思い悩む猟奇王よ、あなたの苦しみは私の苦しみなのです。そして『忍者』よ、私はあなたが好き好き。では猟奇王に代りて一句。

『この先に何にもなければ我れは行く』

オートバイ少女を読んで

横浜市立東戸塚小学校四年一組 **和泉恭子**

オートバイ少女は、私がみたところ「まことちゃん」の目のあたりがにてるみたい。

この、お姉さん、なんとなくふりょうのようで、両親のいないような気がしました。どうなんでしょう？

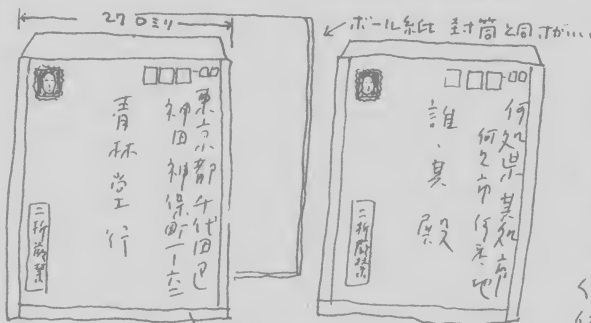
私たちにも読めるように、漢字によ

ガロ投稿作家の諸氏へ

ガロへ投稿するに当って留意すべきこと。

① 原稿料が出ない

これははなはだ遺憾の事態ですが事実です
正常化へ怒力しているところですが、もう少し時間がかかる見込み。これは大事の事ですからよくよく考えてから投稿して下さい。

② 返却用封筒（切手貼付）の入っていないものは返却しない。（下記のようにして下さい。）

③ 原稿は必らず タテ27.3cm ヨコ18.2cm
（これは仕上りの1.2倍です）の寸法で

④ 墨汁または製図用インク（黒）を使用し中間の調子を必要とする場合はスクリーントーンを貼り込む。（うす墨によるボカシは不可）

⑤ セリフやナレーション（これをあわせてネームという）は鉛筆で読みやすく書く

⑥ 送り先は「東京都千代田区神田神保町1−62 青林堂」

⑦ なぜ投稿するのかもう一度考える事。

編集部では今までにない画期的に面白い作品が欲しい。ただし「今までにない」「画期的な」という部分のみをあてこんだ作品は概して「面白くない」自分が感動したマンガ、好きなマンガが何故感動させるのか好きにさせるのかをもう一度考えてみることをおすすめする。

みがなをふってくれたらいいなと思いました。
ギターをもって、サングラスをかけた、男の人、はねがあって「か」の、お化けみたい。
それに「か」のこじきみたい。
この少女は、オートバイが好きなのかな。女の人なのに、よくほしがるな。
ほかの女の子ももってほしくなったのかな。
それとも男の子と、遊ぶとき、自分がないと
この少女はさくらが好きでみに来たのかな、それとも知らないうちに、来たのかな?
そ・れ・と・も、さくらの花の所が岬なのかな。
初め、題を絵を見たときこわそうだったけど、おもしろかった。

鈴木オージさんのこと。

本の一番最初の写真を見て、思ったことは……。
いっちゃ悪いけど行正先生よりふけてるみたい。ふふふ
頭がい〜い。みんなよりえらい!!

おわり

オートバイ少女を読んで

横浜市立東戸塚小学校四年一組
糖添祐子

オートバイ少女ののっているオートバイにヤマハの56の34とかいてあるけど、だれが考えたのかな。
「オートバイ少女」という題は、なんとなくこわそうな題だけど、読んでみるとそんなにこわくなかった。話しはあまりこわくなかったけれど、サングラスをかけて、ひげをはやして、ギターをひいているし、はねもある。
この人はなんとなくこわかった。はねがなければ行正先生ににていると私は思った。(行正先生がモデルになってかいたのかな。)
いろいろなページにいろいろなかんばんが出ているけれど、そういうやつは、だれが考えたのかな。
オートバイ少女の家は一っかいだてかな。
もし一っかいだてならかいだんはらないけど、かいだんがあるから二かいだてだな。
ライトにヤマハとかいてある時とかいてない時がある、おもしろいな。
ナンバープレートにちゃんと、56の34とかいてある時と〜〜とかいてある時がある。
へんだな。

鈴木オージさんの顔を見て

しんせきの人に、なんとなくにているような気がした。

愛読者のみなさまへ。

この二つの『**読書感想文**』は横浜市立東戸塚小学校四年一組の花の「せい」たちより『**鈴木オージ先生へ**』送られた文集から抜萃させていただきました。
なお**鈴木翁二**先生の『**オートバイ少女**』は当社より限定出版されております、御希望の方は定価二千円送料二百円を同封の上直接当社まで送金ください。

通信欄

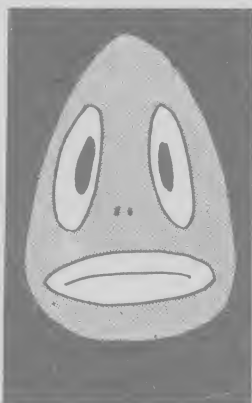
●金はあります。水木しげる先生の貸本から新書版まで単行本は何でも欲しいの。お値段と本の名前を知らせてね。待ってるわ。〒606京都市左京区吉田下阿達町14の2足立方　〈北本雅子〉
●COM全巻を5万円で譲って下さいなるべくなら美品、付録付で。又、山上たつひこの東考社刊「そこに奴が」「やってきた悪夢たち」ひばり書房刊「真夏の夜の夢」を適価にて譲って下さい、その他山上たつひこの初期作品の掲載誌(コピーでも可)も譲って下さい。なるべくなら近在の方。〒470—12愛知県知多郡東浦町緒川蓮池8の1☎0562⑧3)4704　〈戸田豊志〉
●オートバイ少女飛行少年必読の書!『夜走』2号出来!!二人編集雑誌。謄写印刷二色刷にて倍増ページ。売り切れ近し!定価、御自由円〒60円すぐお申し込み下さい。品切れの節は次号をお届け致します。〒231横浜市中区新山下2・6・11　〈夜走社〉
●是非!ガロ'72・1・2・5・6・8〜12・'73・1〜9・11・12・'74・1〜12の各号売って下さい。一冊も可。金は心血出します。当方には貸本漫画(水木・平田・杉浦茂・赤塚・他)虫プロ関係(少年同盟・他)美術手帖'739(千円札工作号)があります。〒491愛知県一宮市大和町馬引郷成亥7の3　〈天野英則〉
●『佐々木マキ作品集』をお持ちで、誰かに譲ってもいいという方、ご連絡下さい。適価で買わせていただきたいのです。〒458名古屋市緑区作の山町一八三の一二　〈中根美佐〉
●石森章太郎ゴールデン・コミックス「ブルーゾーン」1・2巻「佐武と市捕物控」1〜4巻(小学館刊)「ジュン」

〈虫プロ刊〉を適価で譲って下さい。
〒472愛知県知立市山屋敷町東山11の8
〈石田秀一〉

●以下の本お譲りいたします。うしおそうじ「星くずさん」(東邦漫画出版社〜33)牧美也子「青い十字架」前・後・二冊(東光堂S34)水木しげる「悪魔くん」①③(東考社・但し①はカバー無し)忍法秘話②⑦〜⑪⑬⑮〜㉑その他、古い手塚漫画多数(問い合わせ歓迎)以上、条件記入の上、往復ハガキにて連絡されたし。〒636—03奈良県磯城郡川西町結崎338—10
〈浅田治〉

●前谷惟光「お化けのゴースト君」「ロボット安兵衛」「ロケット8ちゃん」「ロボット野球狂時代」、復刻版「墓場の鬼太郎」①②、曙出版「シルバークロス・ビック5篇」、だっくす'78 9・10月号、11月号、大友克洋「マイナースイング」切りぬき、ブレイク創刊号、以上の本を譲ります(交換も可)水木しげる、宮谷一彦、ダデイグース、大友克洋の作品(切りぬき可)跃折羅①③、山上たつひこ「そこに奴が…」「やって来た悪夢たち」東考社、石井隆「女地獄I」を適価でお譲り下さい。〒352新座市北野1の2の25東寮方
〈赤田祐一〉

●OUT12月号・COM何号でも。多少の傷物でも可、とにかく安く譲って下さい。まずは希望価格を書いて、往復ハガキで連絡を……
〒760高松市今里町363—29
〈藤岡幹也〉

●「増刊少年サンデー」村上もとか作の「エーイ剣道」が載っている号すべて(なるべく美本)と、鈴木翁二の青林堂刊『鈴木翁二作品集』北冬書房刊『東京グッドバイ』を、それぞれ適価にてお譲り下さい。(少々高額可)
〒490—01愛知県一宮市浅井町西海戸東郷前297
〈たなかひでまさ〉

●水木しげる氏の「霧の中のジョニー」「地底の足音」「墓をほる男」「地獄」をお持ちの方、その他水木氏の古本お持ちの方、適価でお譲り下さい。

●青林堂版「サスケ」と小島剛夕氏の古本と交換も致します。なお上の四冊をお持ちの方で譲ってやろうという方には古本も差し上げます。まずは、そちらのリストをどうぞよろしく。
〒413—05静岡県賀茂郡河津町田中136の6 ☎05583(4)0173
〈森野達弥〉

●実力者揃いの漫研誌「レッドマシン」が復活。購読会員、文章専門の文芸会員も可。50円切手2枚同封の上。
〒430静岡県浜松市八幡町369レッドマシン編集部へ

●永島慎二『まんがのおべんとう箱』ゴーカ本・ハコ入り・を2万五千円で
〒101千代田区神田神保町1の62☎291—9556青林堂内
〈カタオカ〉

●マンガ家のえほんの会えほん原画展期日5月7日(月)〜5月12日(土)会場プレスセンター丸善店☎508 2511〒100千代田区内幸町2〜2〜1日本プレスセンタービル1F、永島先生の原画が販売されます。!

●日本漫画家協会が作品を募集している、作品は一九七八年中に発表または制作したもので(印刷物または原画)大きさはB2以下、くわしいことは〒104東京都中央区銀座2—4—1銀楽ビル2F☎03 561 3834まで。

ゴシップ

●今月巻頭2色ページの**安西水丸**先生が所属される『パレットくらぶ』(**秋山育**、**安西水丸**、**佐藤憲吉**、**原田治**)がヌード画展をされますぞ、場所は渋谷区神宮前2—33—16ギャラリー伊藤☎401 4047、時間は10時〜7時まで

●詩人で芸術家で編集者もしている**高取英**氏が詩集『月蝕歌劇団』を刊行された、イラストは**安西水丸**氏、ほしい人は☎451 9825夜のみ価千二百円送料高取負担。

●先月号より『マンガの眼』を書いてもらっている**梶井純**さんの評論集『現代マンガの発掘』(北冬書房・定価千四百円)が刊行された、内容は、貸本マンガと劇画の世界、手塚治虫以後のマンガ、初期少女マンガにかんするメモ、手塚治虫論、水木しげるの初期作品、つげ義春の初期作品、かわぐちかいじ論、等々正統派マンガ論読者は買うべし。

●今月は新入生や新入社員の月ですが青林堂でも新入社員が2人ほど入社しました、大学を出たばかりの**谷田部**君と高校を出たばかりの**泉**君です。

●ところでボクの650ccのオートバイも買ってから2年がたち、一万九千kmも走ってしまいました、毎日の通勤や休日のツーリングと、いつのまにかこんなに走って、暴走族にブタれたことも、スピード違反でつかまったこともあります。日光の金精峠にツーリングに行って、アイスバーンでスリップしてコケていると、四輪の人々が車を止めて助けに来てくれて命びろいをしたこともあります、品川む28—52のオートバイを見たらヨロシク。と、オートバイ雑誌風にキメて今月はオシマイ。
〈和博記〉